



当日の展示プログラム紹介



広島市立基町高等学校の生徒と被爆者との共同制作による「原爆の絵」

広島市立基町高等学校創造表現コースでは、原爆被害の実相を後世に伝えていくために、被爆体験証言者とともに「原爆の絵」の制作に取り組んでいます。この取り組みは、被爆者が高齢化する中、被爆の実相を絵画として後世に残すことや、絵の制作を通して、高校生が被爆者の思いを受け継ぎ、平和の尊さについて考えることを目的に行われています。今回は全35点の複製原画を展示しました。



市で保存している戦争史料

明治政府の発足以降長らく続いてきた大日本帝国と戦争の歴史。その中でも満州事変から太平洋戦争終結までの「15年戦争」にフォーカスを当てた展示を行いました。

展示コーナーは8つに分かれ、総力戦とは、国民一人一人にとっての戦争とはどのようなものだったのか感じられる内容となりました。



市民団体コーナー（いせはら市民平和実行委員会）

いせはら市民平和実行委員会による「いせはら市民平和展」が行われました。

戦争に関する写真や資料が展示され、資料の解説もしていただき、当日は多くの参加者の方で賑わいました。



令和4年度 中学生平和作文 受賞作品

伊勢原市では、広く市民の平和意識を啓発することを目的に、市立4中学校の3年生を対象に「中学生平和作文」を募集し表彰しています。令和4年度は、応募総数669点の中から、優秀賞4点、佳作4点が入賞しました。

27日（土）には、受賞者の表彰式も執り行いました。



令和4年度 中学生ヒロシマ平和の旅 参加報告

これまで、「中学生平和作文」優秀賞受賞者は「中学生ヒロシマ平和の旅派遣団」として、広島市で行われる平和記念式典への参列や、資料館の見学を通して、平和の大切さを学び、「平和のつどい」でその報告を行ってきました。

令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、広島市への派遣を中止していましたが、令和4年度は優秀賞受賞者4名を、3年ぶりに広島市への派遣することができました。

当日は、中学生が広島で学んだ事をまとめた掲示物を展示しました。



映像コーナー

伊勢原市では、平成26年度から東海大学文化社会学部広報メディア学科・水島研究室と協働し、平和史料収集・公開事業に取り組んでいます。映像コーナーでは、これまでに作成した「戦争体験インタビュー」のダイジェスト版と、令和2年度から作成した平和ドキュメンタリー映像「伝えたい想いを乗せて」を放映しました。

「伝えたい想いを乗せて」は、戦争の記憶を風化させることなく平和の尊さを次世代へ伝えることを目的に、市内各地の石碑や建造物などに宿る戦争の記憶に焦点を当て制作した映像作品となっています。

